



## 東北関東大震災

首をかしげる福島原発事故での東電、原子力保安院の対応

マグニチュード9という巨大地震。津波で流された街を見ると、空襲で焼けた街のようだ。八六九年の貞観地震が同じようだったらしい。研究費をケチらなければ、その事ももっと早く分かったと思う。尤も、千年に一度の地震の為に何で金をかけるの？」と事業仕分けでヒステリックに云われたら、対策費は出ないかも。

横浜の我が家は大揺れに揺れたが、幸いタンクスガードなどでタンクや本棚を全て固定してあったので、特に問題はなかった。

さて、その後の福島原発の事故への対応をテレビで見ていると、プラントエンジニアだった者としては首をかしげてしまふ。

非常用発電機の傍には燃料タンクがある。そのタンクの燃料が少なくなったら屋外のタンクから補充する。津波で屋外

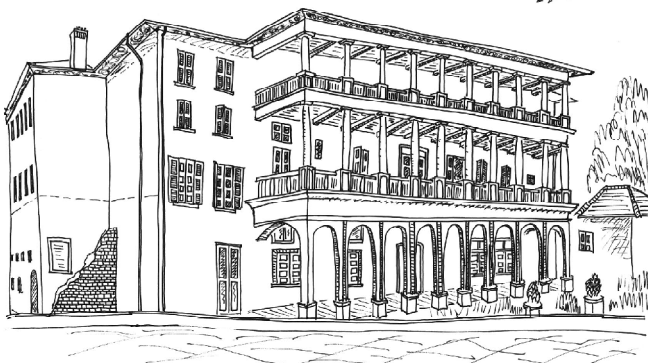
タンクが流されても、ヘリコプターで燃料のドラム缶を運んで」と要請すれば何とかなった筈。「燃料切れで非常用発電機が停止」はおかしい。「2号炉の圧力容器に水を入れていのに水位が上がらないのは水位計が故障」との説明。しかし、水位計は三重、三重に設けられている。それがすべて故障とは考えにくい。

原子炉建て屋の爆発後にテレビに示された図には、格納容器だけが描いてあった。しかし、

実際には、格納容器の壁を蒸気、水など沢山の配管が貫いており、配線もある。爆発で、コンクリート片が飛び散れば、それらは壊れる。それに触れずに、格納容器は『健全』と云うのはおかしい。

原発には詳細な運転マニュアルがある。しかし、それには非常用発電機が使えない事態は書いてない。書いたら、非常用発電機があるから原子炉は安全」と云ったことが嘘になる。実際には非常用発電機が使えない事態が発生。その時、システム全体を考えて対処方法を考えるエンジニアがどこにも居なかったのだらうか？皆さんはどう思われますか？

Villa SIMONETTA  
fine XV secolo  
RISTORANTE 1971  
AREA D'USO  
CIVICO SCUOLA DI MUSICA



## ヴィラ・シモネッタ

1980年代の末にミラノの街を歩いていて、何か心を惹かれた建物があった。表札には「ヴィラ・シモネッタ」とある。更に、「15世紀に建てられ、1547年に再建された、市立音楽学校」とあった。

シモネッタという名前からは、ポッティチェリが描いた「ヴィーナスの誕生」のモデルのシモネッタ・ヴェスプッチが思い浮かぶ。しかし、

彼女は15世紀のフィレンツェの人。ミラノのこのヴィラと関係あるのかどうか分からない。

このスケッチをした頃は、壁のモルタルは一部剥がれ、煉瓦がむき出しになっていた。木製の窓枠もペンキが剥がれかけ、何となくうら寂しい建物であった。しかし、今は、ここで様々な音楽会が催されている。

日本アンデパンダン展は3月18日まで臨時休館でした。その後の予定は国立新美術館(03-5777-8600)にお問い合わせ願います。

「日曜ジジ通信」のバックナンバーは <http://yms-tor.art.coocan.jp/> を開いて、「日曜通信」のボタンをクリックすると表示されます。